

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 126	提案機関名 初声漁業協同組合
<b>要望問題名</b> シラス漁獲量とマイワシ・カタクチイワシ漁獲量の相関について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 当組合で自営している定置網(猪口網)に入網するマイワシ・カタクチイワシの漁獲量が年々減少し、経営が難しくなっている。(漁場周辺に来る成魚のマイワシ・カタクチイワシの量が減少しているように感じられる。) 湘南しらすを中心とした「シラスの漁獲量」の実態把握をしていただくとともに、その「シラスの漁獲量」と「成魚を含めたマイワシ・カタクチイワシの漁獲量」との因果関係を調査・研究していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。(提案者は記載不要)

回答機関名	神奈川県水産技術センター	担当部所	企画資源部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	本県沿岸海域におけるシラスの漁況予測手法の再検討		
対応の内容等	本県に来遊するイワシ類は、マイワシもカタクチイワシも太平洋系群に属します。マイワシ太平洋系群は1989年以降急速に資源量が減少し現在に至っています。一方、カタクチイワシ太平洋系群はマイワシと入れ替わるように資源量を増大し、2000年代に入り本県沿岸海域にも多く来遊するようになりましたが、ここ数年その資源水準は減少傾向にあります。このように、元々この2魚種は定期的に資源変動を繰り返す特徴があり、最近では総じて年々来遊量が減少しています。 今後ともイワシ類の資源調査の中でご要望の事項について調査・研究を進めます。また、シラスの漁獲量の把握にも引き続き努めて参ります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			